

第4部

— 地域・海区の動向 —

■ 林業

- ・篠栗町が、「森林をつなぐ 人・未来・ふるさと」をテーマに林業振興研修大会を開催。広島県の安田幸氏が「攻めの林業を展開する」という演題で講演。
- ・一般社団法人福岡県木材組合連合会が、木造住宅産業に関わる事業者自らが現状を認識し将来のあり方



2017年

林地残

合等が協

・原木の安定供給体制

プロセッサー1台

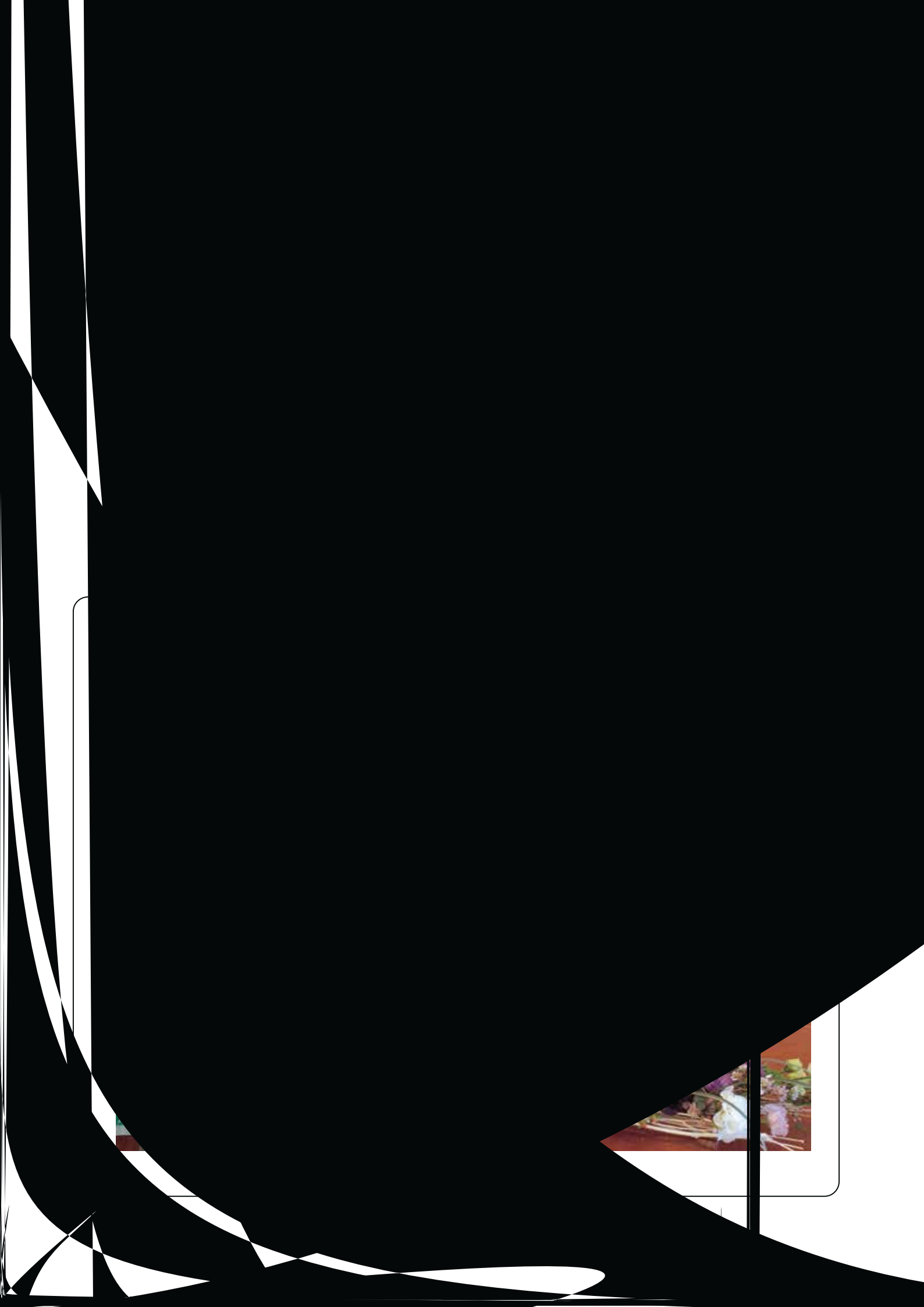
・高品質



■ 林業

・畑生産森林組合（北九州市門司区）が平成 26 年 5 月、創立 50 周年の記念総会を開催。昭和 40 年の設立から半世紀にわ





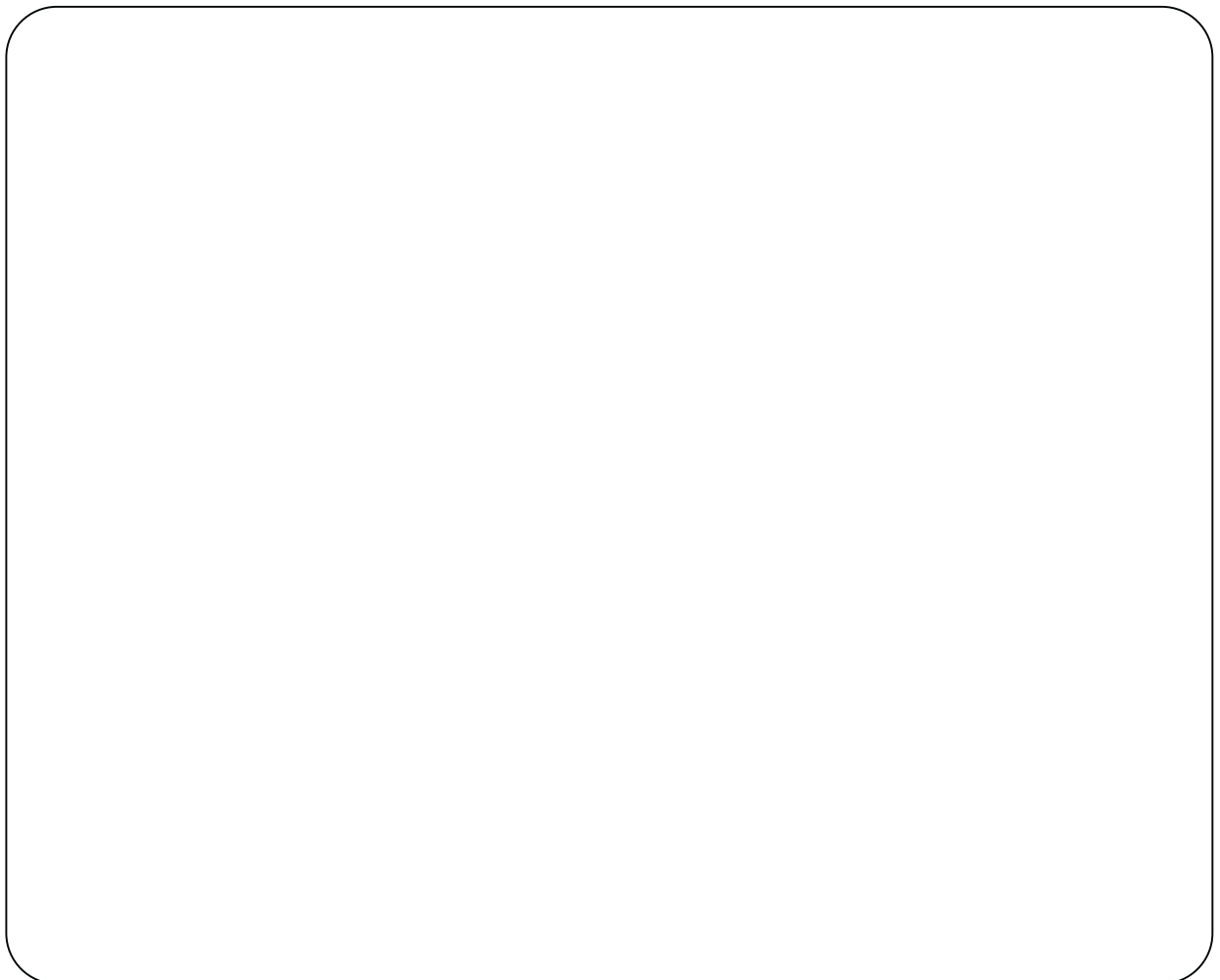
■ 林業

・市町村、森林組合、林業事業体を対象にした「森林経営計画作成研修会」や地区座談会の開催などにより、飯塚市をはじめとして5市町村で、42団地、約3,000haの森林経営計画を策定。

・福岡県広域森林組合（嘉飯山支店・北支店）は、主伐の推進やコンテナ苗の植栽に取り組むとともに、主伐を計画しているシカ被害の激しい約221haのスギ・ヒノキ林において、立木をシカの角研ぎ被害から保護するため樹皮保護材を設置。

・きのこ、山菜等を生かした都市部との交流や子供達への森林教育活動などに活躍する筑豊地区女性林業研究グループ会長の荒木光子氏が、木材業界における業績が認められ、筑豊地区木材協同組合の理事長に就任。女性の視点を活かして、地域の林産業の発展に尽力。

・筑豊地区における素材生産量を拡大し、林業



5 筑後農林事務所管内

■ 農業

- ・水田農業の持続的発展に向け、集落営農組



■ 林業

- ・八女市星野村字石トヲを起点とし、八女市星野村字ユズルハを終点とする新規路線、林道「千々谷～滝の脇線」（延長 9.2km、幅員 4.0m）の全体計画調査を実施。
- ・八女市内の温浴施設では、木質チップを燃料とするバイオマスボイラーを 2 か所に導入。一方、八女林産協同組合では、それらの施設等へ木質チップを供給するため、移動式チップパーを導入。今後、更に林地残材の有効利用が期待される。
- ・管内の製材業等 3 社が、新たに木材加工や製材機械等を導入。これらの施設整備により、原木消費量を約 16,000 m³増加する計画。
- ・黒木町あすなろ会と星野村あいりん会の女性林研グループが、料理研究家を講師として招き、地元の特産品を活かした郷土料理づくりの研修会を実施。
- ・第 45 回福岡県椎茸品評会にお



6 行橋農林事務所管内



■



■ 林業

- ・平成 25 年度に始まった森林・山村振興対策事業に取り組む団体は管内で 13 団体。とりわけみやこ町では、地元民による地元の里山の手入れに励む。取組内容は、侵入竹の伐採、荒廃した竹林を再生させ里山に再生、共有林の管理、さらには神社仏閣や古城の登山道整備と様々。これまで取り組んでいた所有林を手入れする動機づけとなり県民参加の森林づくりが進む。
- ・森林セラピー基地として平成 25



有明海区

ノリ養殖は、秋芽網^{※1}生産期は、当初予定されていた種付け採苗日が直前の台風接
触に伴い、急遽5日間延期された。水温調整などその影響が懸念されたが、水

